

言い換え表現と配慮表現から見たトートロジー表現について

小野正樹（筑波大学）

要 旨

本研究は日本語トートロジー表現について、「XはXだ」以外の構文「XもXだ」「Xと言えば（といっちゃ）Xだ」も認めることで、トートロジー表現の体系化を試みるものである。トートロジー表現を言い換え（paraphrase）から見ると、聴者に語彙的な理解を促進するものではなく、話者の主観的態度の非明示化表現と、対者目当ての配慮表現としての言い換えの二つの方向性がある。この二つの方向性はXの語彙的意味により影響を与えることを示す。

キーワード：談話助詞、積極的言い換え、消極的言い換え、差異化、慣習化

1. はじめに

『君は僕だ』（2012 作詞秋元康 歌前田敦子）の歌詞では、「君は僕だ」、「君は君だ」、「僕は僕だ」と表現が変化していく。「君は僕だ」では、「変なところが似てる」からこそ「変わらない君が好き」として「君」と「僕」は異なる対象と認識して、「君」と「僕」の特徴をそれぞれ記しているが、続けて「君は君だ」と述べて、「好きなように生きる」と突き放し、さらに「僕は僕だ」という歌詞の後には「勝手にさせてくれ」という表現が続き、「君」との距離をとるのである。つまり、「君は僕だ」では、聴者と話者に同一感を持たせようとする意図を感じるが、「君は君だ」「僕は僕だ」においては、聴者と話者はお互いに独立した存在として、両者の差異を歌う。この名詞述語文「XはXだ」構文をトートロジー表現とするが、こうした文の機能について探るのが本研究の目的である。

日本語には「XはXだ」表現が多様であることは、データ観察からも伺え、日常的な表現と言えよう。こうした同一名詞のトートロジーについて、酒井(2010)では、「論理学の用語で恒真命題（＝世界の状況と無関係に常に真となる命題）とされる」が、この表現はなぜ発話されるかという点で、「トートロジーはいかにしてそれ自身が担っていない（＝言外の）意味を伝達するか。」という問を発している（酒井 2012）。そこで、本論では、名詞「X」の類型化から、一文内に同一名詞が繰り返される表現を集め、その繰り返しパターンと機能の関係を追究する。

2. トートロジー表現の体系

トートロジー表現は「XはXだ」構文が典型的ではあるが、助詞「は」のみではなく、他の助詞表現も観察される。日本語助詞には、文法助詞と談話助詞があるが、例として、名詞「X」に「私」が入る構文で、検索エンジンYahooでトートロジー表現が検索できたものを「○」、できなかったものを「×」とする。（検索日時は2016年2月21日）。検索助詞は、文法助詞として、「が」「に」「を」「で」「まで」「から」「より」「の」、

談話助詞（とりたて助詞）として、「は」「も」「だけ」「ばかり」「しか」「など」「でも」「まで」「さえ」「くらい」「ほど」である。

〈表 1〉トートロジー表現が成立する助詞

文法助詞		談話助詞	
	Yahoo		Yahoo
君が君だ	×	君は君だ	○
君に君だ	×	君も君だ	○
君を君だ	×	君だけ君だ	×
君で君だ	×	君ばかり君だ	×
君まで君だ	×	君しか君だ	×
君から君だ	×	君など君だ	×
君より君だ	×	君でも君だ	×
君の君だ	×	君まで君だ	×
		君さえ君だ	×
		君くらい君だ	×
		君ほど君だ	×

調査の結果から、談話助詞「は」と「も」のみで、トートロジー表現が見られた。(1)は「XもXだ」構文の例である。

(1)

そんなところにお嫁に行くの止めちゃいな！

彼も彼よね！親の言いなりになって……………。

結婚されても針のムシロになっちゃうし、幸せになれない気がするな。

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1311237728

個人的内省だが、助詞「は」「も」が可能であっても、助詞の置き換えはできない(注1)。

(1') *彼は彼よね！親の言いなりになって……………。

次の詩でも「ぼくはぼくだ」を「ぼくもぼくだ」には置き換えられない。

(2)

ぼくはこどもじゃない

ぼくはぼくだ

ぼくはおとなじゃない

ぼくはぼくだ

ぼくはきみじゃない
ぼくはぼくだ
だれがきめたのかしれないが
ぼくはうまれたときからぼくだ
だからこれからも
ぼくはぼくをやっていく
ぼくはぜったいにぼくだから
なんにでもなれる
エイリアンにだってなれる

谷川俊太郎(2013)「ぼく」

(2')

ぼくはこどもじゃない
? ぼくもぼくだ

次に、談話助詞ではないが、「と言えぱ」とその口語体「ちゃ」という表現にもトートロジー表現が見られる^(注2)。

(3) 高いと言えぱ高いし安いといえぱ安い付加価値をどのように考えるか・・・でしょうね

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q11144014436

(4) 高いっちゃ高いけど安いっちゃ安いからスゲー悩むな!

<https://twitter.com/rizarad/status/526660601708179457>

分析の結果、助詞「は」「も」のような「X」の提題が可能なものや、「と言えぱ」の形式にトートロジー表現が見られる。文法助詞にはトートロジー表現が見られないことは、「X」と「X」の格関係、即ち述語との意味役割や認知的な関係を示すものではなく、「X」に対する話者の捉え方や、聴者との情報関係から選択されることが、トートロジー表現の特徴と言えよう。

3. 言い換えから見たトートロジー表現

言い換えという言語行動は、日常生活での待遇性を含めた位相による言い換え、話し言葉から書き言葉への言い換え、日常語から学術用語への言い換えなど、頻繁に、かつ多様に行われるものである。(5)のように言い換えを通じて、ある語彙や概念の定義もなされる。

(5)プログラミング言語とは、主に人間がコンピュータプログラムを記述、編集するために用いる人工言語。

<http://e-words.jp/w/プログラミング言語.html>

これを滝浦(2007)では「名指す」言い換えとしている。一方で、トートロジー表現は、ある語彙や概念の定義を明確には行えてはいないため、構文的には同じ名詞述語文でも言い換えの種類・方法が異なる。

(6)岩井は「夫婦の概念は時代で違うのかもしれない。父の時代は夫婦は結婚して一体の生き物になる感じが強かったのでは。今は私は私、あなたはあなたという夫婦が多いのかも」と分析する。

http://digital.asahi.com/articles/DA3S12171100.html?_requesturl=articles%2FDA3S12171100.html&rm=150

「私」「あなた」を定義しているわけではなく、聴者に対して「私」と「あなた」の差異化(阿部 2007)を強調するために、「私は私」「あなたはあなた」という表現が用いられる。一方で、次の例はどうであろうか。

(7)いいっちゃ、いいんですけどね(提供者:松尾) 出典ほぼ日刊イトイ新聞-オトナ語の謎。いいのかよ! よくないのかよ! どっちなんだよ! まあ、こう言われたらダメってことだ。

<http://matome.naver.jp/odai/2144627289267785101/2144627445071265403>

この発話では、特に積極的に「いい」という判断をしてはいない。話者は最終的に「ダメ」と解釈しているが、「いい」か「ダメ」かの差異を図る表現ではない。つまり、「いい」ことを「いい」と強化はできていない。そこで、前者(6)を積極的な言い換え、後者(7)を消極的な言い換えとしたい。こうした考えを整理すると、以下のようになる。

- 1) 語・語句の定義を目的とする語・語句単位での言い換えと、構文単位での言い換えがある。
- 2) 文脈的な言い換えには話者による積極的な言い換えと、消極的な言い換えがある。
- 3) 積極的な言い換えには、言い換え対象を情報論的に詳細な記述を目指すものと、判断を保留するものがあり、トートロジー表現はこの範疇に含まれる。

4. トートロジー表現の機能

阿部(2008)他では、「主観性仮説」を提唱し、トートロジーは情報量がゼロであるがゆえに、豊かな主観性を表すとしている。

差異化タイプにおいては、もっぱら「望ましさ」判断が機能する。同質化タイプにおいても、性質の差異は「望ましさ」の差異をも伴うことが多い。実現要請タイプは、事態の実現へ向けての相手への働きかけである。トートロジーは、情報量ゼロという点で、矛盾文、自明文など同様に表面的にはナンセンスな文であるが、その機能は、あえて情報量をなくすことで、ふだんは目立たない主観性の働きを直裁に表わすことにある。(p.5)

ここから考えたいのは、「XはXだ」の1番目の「X」の主題に対して2番目の「X」が解説を担っているのではなく、「XはXだ」構文で、新たな主張を行っていることにある。また、中村(2000)では、以下の主張を行っている。

(8)「勝ち」は勝ち」と「負け」は負け」

(「勝ち」は勝ち」と「負け」は負け」を例に、)負けが勝ちに近づいて同化しそうなときに、両者を切り離すのが「負け」は負け」であるのに対して、「勝ち」は勝ち」は勝ちが負けに近づき同化しそうなときに両者を切り離すという主張をしていて、「負け」は負け」には慰めや言い訳を拒否するストイックさがあるが、「勝ち」は勝ち」は結果オーライで楽天的である。

(中村(2000):72)

トートロジー表現解釈には、「XはXだ」の「X」の語彙的意味が影響を与えているという貴重な指摘である。中村を参考に、トートロジー表現における「X」について、語彙的意味を二大別することを試みたい。一つは中村の指摘のように、反義語を持つもので、もう一つは領域を持つものである。反義語を持つものは山口(1975)を参考にすると、諾／否、善／悪、真／偽、正／誤、秩序／反秩序、宇宙／混沌、成功／失敗、存在／非在、快樂／苦痛、浄／不浄、生／死、愛／憎、エロス／タナトス等の対立が挙げられることから、以下のような例である。

(9)いかに女がつよくても、女は女ですよ。

峰 隆一郎(2003)『「長崎-東京」特急殺人』廣濟堂出版

(10)やっぱり子供は子供だよな

水無月 さらら(2001)『少年アリスの憂鬱』白泉社

(9)(10)の例では「男」に対する「女」、「大人」に対する「子供」を否定的に捉えた発話と感じられる。「XはXだ」と述べることで、「X」を対局の「Y」、(9)では「X」が「女」で「Y」が「男」、(10)では「X」が「子供」で「Y」が「大人」のように、聴者に「Y」が優位にあることを非明示的に伝える表現となっている。もちろん、「X」と「Y」にどちらに優位性があるかは絶対的なものではなく、ある発話の話者の考え方によるものである。

一方、こうした二項対立ではない語彙もあり、トートロジー表現に多く見られるものとしては一人称、二人称、三人称の体系をもつ人称や、コ系、ソ系、ア系の対立を持つ指示詞、昨日・今日・明日のような時間軸の体系を持つものである。

(11)「これはこれ」「それはそれ」「あれはあれ」

(12)「僕は僕」「君は君」「彼は彼」「彼女は彼女」

(13) 「昨日は昨日」「今日は今日」「明日は明日」

これらは、「X」に対する「Y」「Z」ではなく、「X」と「Y」と「Z」の三者、あるいはそれ以上が対立するだけで、「X」「Y」「Z」のいずれかが優位性を持つというものではない。「これ」「それ」「あれ」、「僕」「君」「彼」「彼女」、「昨日」「今日」「明日」は均質なものであり、優位性は持ち得ない。そこで、これらの表現を見ると、二つの方向性がある。一つは3』で述べた「差異化」である。

(14) 「大槻涼彦…君は誰だ」「誰って、面白い事を云うね。僕は僕だよ。当たり前じゃないか、そんなの。あ、ご愁傷様」

佐藤友哉(2001)『鏡公彦にうってつけの殺人』

(15) 「日本は停戦の後に、講和を行ないたいと申し出ています。ですが以前からルーズベルト前大統領は、無条件降伏のみを受諾するとしてきました。」「ルーズベルトはルーズベルト、私は私だ。」トルーマンはそういつて、また考え込んだ。

竹内誠(2002)『太平洋最終決戦・不沈空母「硫黄島」』

もう一つの方向性に、次のような表現が見られる。

(16) 先日の台風 15 号で、高知県のレストランにある巨大サメのオブジェが転倒。元に戻すと思いきや、「これはこれで面白い」ということで放置が決定し話題となっています。

<http://fundo.jp/38500>

(17) 私は私なりに調べてみました。

Yahoo!知恵袋(2005)

(16') (17') と述べても現実世界の出来事としては変わりはないことから、「これはこれで」「私は私なりに」の表現は、「XはXだ」として定義を行うものではなく、あくまでも「X」をどのように聴者に伝えるかという、述べ方にかかわるものである。

(16') 「これは面白い」ということで放置が決定し話題となっています。

(17') 私は調べてみました。

こうした表現は慣習化されてものでもあり、それぞれ「面白い」あるいは「調べてみました」ことを述べるのだが、話者による一事例として報告しているように感じられる。「対人的コミュニケーションにおいて、相手との対人関係をなるべく良好に保つことに配慮して用いられることが、一定程度以上に慣習化された言語表現」(山岡 2015) と位置づけたい。同様の表現として、「かもしれない」には「相手を傷つけるおそれのある発話の前置きとして、それを緩和するための配慮として、相手の見解や立場を一旦は受け入れていることを意思表示する。」機能があるとして、配慮表現の一形式にもつながる。

(18)君は試合には勝ったかもしれないが、実力はまだまだだと思ったほうがいい。

小野・山岡・牧原(2009) (再掲山岡・牧原・小野 2010 pp.203-204)

(18) は、文末表現「かもしれない」が従来有している可能性判断を有してはいないことから、新たな発話機能として、聴者目当ての配慮表現と考えたが、この構文は、以下のようにも言い換えられ、同一語「勝つ」のトートロジー表現とも考えられよう。

(18')君は試合には勝つには勝ったかもしれないが、実力はまだまだだと思ったほうがいい。

「勝つ」ということを絶対視したものではないこととして、トートロジー表現と結びつくものである。

5. まとめと今後の課題

トートロジー表現について、考察を行ってきたが、本論の結論は以下の通りである。

- 1) 「XはXだ」では、話者により「X」あるいは対局の「Y」に価値を置く立場で、「X」ではない「Y」との差異化を聴者に伝える。
- 2) 「XはXだ」では、話者により「Xである」ことを主張しながらも、聴者への主張を緩和する。

トートロジー表現は語用論の観点から見れば Grice(1975)の量の原則(maxim of quantity)には違反しており、ここにこの表現の発話意図がある。1) は話者による「X」の価値を聴者に非明示的に伝えることが、話者の意図である。一方で、2) では話者の一意見であることを述べる表現でもあり、述べ方に関わるものと言えよう。

また、一文のトートロジー表現ではないが、談話レベルにおいて、トートロジー表現となるものもある。

(19)

A: 今度ウチの課に来ることになった佐藤、おまえのところにいたんだって? どう?

B: 優秀な社員だね。

A: どんなふうに?

B: とにかく優秀な社員だな

山岡・牧原・小野(2010)より

この発話は、副詞「とにかく」と共起しながらトートロジー表現として復元できよう。

(19')優秀な社員というのは、とにかく優秀な社員だ。

談話に埋め込まれたトートロジーの発想にも今後注目していきたい。

注

- (1) 記号「*」は非文法的な文を示す。
- (2) この構文については山岡政紀氏にご指摘をいただいた。

参考文献

- 阿部宏 (2007) 「トートロジーと主観性について」日本認知言語学会第8回大会 (於成蹊大学, 2007年9月22日) 発表ハンドアウト
- 小野正樹・山岡政紀・牧原功(2009) 「『かもしれない』の談話機能について」『漢日理論言語学研究』沈力・趙華敏編、学苑出版社、26-37
- 小野正樹 (2015) 「言い換えマーカ―の記述試案―言い換え行為の体系的理解を目指して」『日本語コミュニケーション研究論集』第4号:1-10
- 小野正樹・守時なぎさ・田村直子・山下悠貴乃(2015) 「日本語学習者の「言い換え」について―語彙知識とストラテジーに注目して―」『第18回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム報告・発表論文集』ヨーロッパ日本研究協会 European Association for Japanese Studies (EAJS):119-124
- 小野正樹 (2015) 「慣習化された日本語配慮表現の発想」『第17回大会発表論文集』第10号、日本語用論学会:311-314
- 酒井智宏(2010) 「トートロジーの主観性の源泉でないもの」『東京大学言語学論集』30:195-214
- 酒井智宏(2010)『トートロジーの意味を構築する : 「意味」のない日常言語の意味論』くろしお出版
- 東京外国語大学留学生日本語教育センターグループ KANAME (代表 鈴木智美) 編著 (2007) 『複合助詞がこれでわかる』ひつじ書房
- 中村芳久(2000) 「「勝ち」は勝ち」「負け」は負け―トートロジーに潜む認知的否定」『言語』29(11)大修館書店:71-76
- 野田尚史・高山善行・小林隆編 2014. 『日本語の配慮表現の多様性―歴史的変化と地理的・社会的差異』くろしお出版
- 山口昌男(1975) 『文化と両義性』岩波書店:40
- 山本尚子(2010) 「「AもAだ」構文の意味解釈」『日本語用論学会大会発表論文集』6号 日本語用論学会事務局編:137-144
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現―日本語語用論入門』明治書院
- 山岡政紀 (2015) 「慣習化されたポライトネスとしての配慮表現の定義」『第17回大会発表論文集』第10号、日本語用論学会:315-318
- Grice,H.P.(1975)“Logic and Conversation”,in Cole and Morgan,op.cit:41-58

使用データ

『現代日本語書き言葉均衡コーパス 少納言』大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所と文部科学省科学研究費特定領域研究「日本語コーパス」プロジェクト
<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>

谷川俊太郎(2013)『ぼくはぼく』童話屋

秋元康(2012)『君は僕だ』株式会社ロム・シェアリング

<https://twitter.com/rizarad/status/526660601708179457>

<http://e-words.jp/w/プログラミング言語.html>

http://digital.asahi.com/articles/DA3S12171100.html?_requesturl=articles%2FDA3S12171100.html&rm=150

<http://matome.naver.jp/odai/2144627289267785101/2144627445071265403>

(小野正樹、筑波大学大学 人文社会系、ono.masaki.ga@u.tsukuba.ac.jp)